

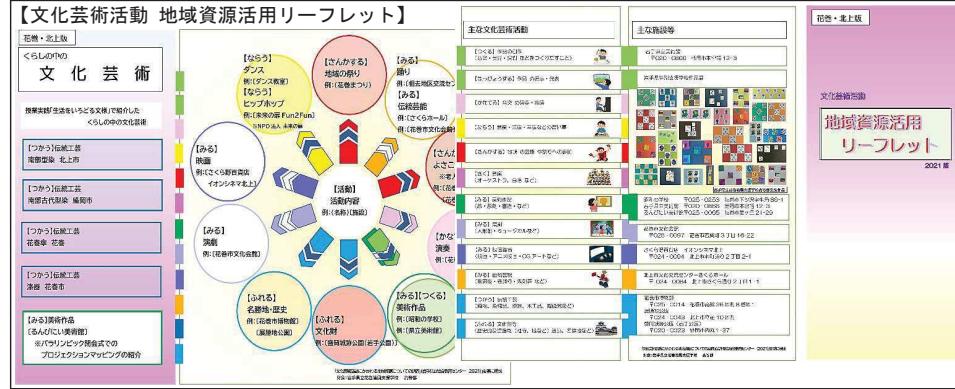
III 研究のまとめ

授業づくりに際して、教員の困難さを踏まえ、評価の観点を基にして児童生徒の実態を把握しました。その後、学びの連続性を踏まえた題材を選択し、授業の展開に関わる認識を教員間で共有して、授業実践とその改善を行うことで、図画工作科・美術科における資質・能力を育成するための授業づくりの一例を示すことができました。

そして、それぞれの授業実践を踏まえ、児童生徒が学んだことを生かし「日常的に文化芸術活動に慣れ親しみ、参画できるような環境」を設定しました。

小学部では、児童が、日常的に作品に触れることができるような鑑賞の場において、自分の作品に愛着をもち、じっくりと眺めたり、触ったりしている姿が見られました。

高等部では、文化芸術活動に関わる地域資源の活用状況やニーズの調査を実施し、調査から得た情報を基に、生徒が生活や社会の中の芸術や文化芸術活動を自分にとって身近な活動として関連付けて捉える一助として、文化芸術活動地域資源活用リーフレット（北上・花巻版）を作成しました。



IV おわりに

図画工作科・美術科における資質・能力の育成に向けた授業づくりを通して、これまで漠然とみているだけでは気付かなかつた、身の回りの形や色彩などの特徴に気付いたり、よさや美しさなどを感じ取ったりする児童生徒の姿が見られました。見方や感じ方を深める取組が、美術や美術文化を自分にとって身近なものとして捉えるきっかけとなり、ひいては、美術の側面からの文化芸術活動の充実につながっていくものと期待します。

本授業づくりを通して、主担当教員の「題材開発」に関する困難さが減少していることが明らかとなりました。一方、個別対応または支援に当たる職員の「支援」に対する困難さが増加しており、これは従前の作品づくりや設定された課題を解決するための支援から、資質・能力を育成するための支援へと個々の児童生徒にとって必要な支援を再考しているためと推察しました。「評価の観点を踏まえた実態調査」の活用評価の観点を基に、多様な実態の児童生徒に対して、それぞれの段階を踏まえた目標を設定し、そのための手立てを検討していくことが必要となるものと考えます。

〇本研究の報告書は、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。

<http://www1.iwate-ed.jp/>



令和3年度 岩手県立総合教育センター

研究主題

特別支援学校における図画工作科・美術科の授業づくりに関する研究

—文化芸術活動の充実に向けて—

【研究担当者】福田 要 阿部 真弓

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562

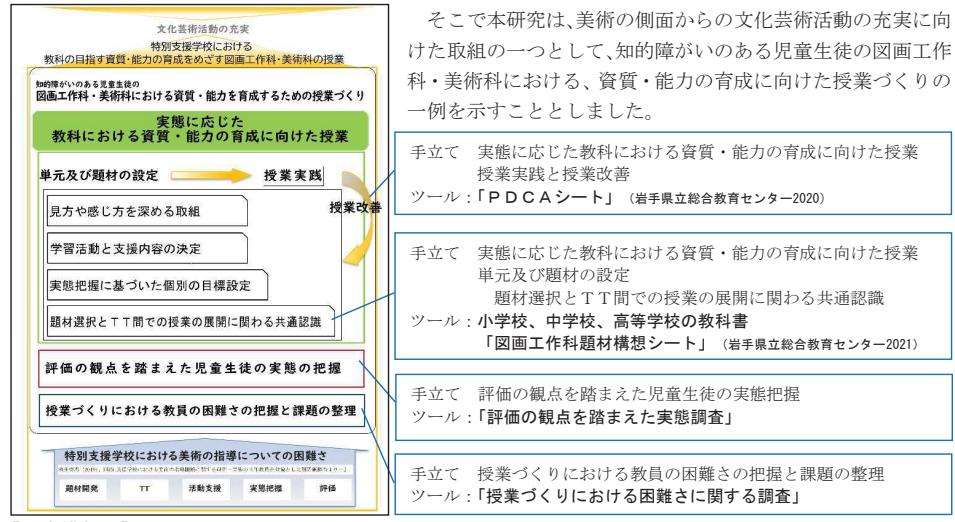
E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

I 研究構想

文化芸術振興基本法では、「文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であること」が明記されています。また、文化芸術推進基本計画でも、**価値に気付くことができる機会の確保**や**日常的に参画できるような環境作りの必要性**が示されています。岩手県においても、「豊かな歴史や文化を受け継いで県民誰もが文化芸術に親しみ創造できる魅力あふれる岩手」を基本目標として、障がい者による文化芸術活動の総合的推進を軸とする方向が示され、「障がい者文化芸術の創作活動に安心して取り組むことができる環境づくりの推進」など、障がい者による創造性あふれる創作活動への支援が重点取組事項の一つに位置付けられています。

学習指導要領では、芸術系教科等において、**生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力の育成**を目指すことが重視され、育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づいて構造的に示されました。

知的障がいを対象とした特別支援学校においても、小学校、中学校及び高等学校の各教科等の目標や内容等との連続性や関連性が整理され、**育成を目指す資質・能力を明確にするために段階ごとの目標が新設**されました。そのため各教科等を合わせた指導とともに**学ぶ意味の明確化や学びの連続性を踏まえた教科別の指導の充実**も求められています。



そこで本研究は、美術の側面からの文化芸術活動の充実に向けた取組の一つとして、知的障がいのある児童生徒の図画工作科・美術科における、資質・能力の育成に向けた授業づくりの一例を示すこととしました。

手立て 実態に応じた教科における資質・能力の育成に向けた授業
授業実践と授業改善
ツール：「P D C A シート」（岩手県立総合教育センター2020）

手立て 実態に応じた教科における資質・能力の育成に向けた授業
単元及び題材の設定
題材選択とTT間での授業の展開にわたる共通認識
ツール：小学校、中学校、高等学校の教科書
「図画工作科題材構想シート」（岩手県立総合教育センター2021）

手立て 評価の観点を踏まえた児童生徒の実態把握
ツール：「評価の観点を踏まえた実態調査」

手立て 授業づくりにおける教員の困難さの把握と課題の整理
ツール：「授業づくりにおける困難さに関する調査」

II 図画工作科・美術科における、資質・能力の育成に向けた授業づくり

研究協力校：県立花巻清風支援学校

授業実践1 小学部 図画工作科 『ぺったんコロコロ／うつしたかたちから』

題材選択

つくりだすことの楽しさに気付き進んで学習活動に取り組むことができるよう、造形遊びをする活動を通して造形的な視点に気付き、「自分の感覚と行為と一体であるようなイメージ」をもち、絵に表す活動を通して表したいことを表現できるように、題材を関連させて単元として構成しました。

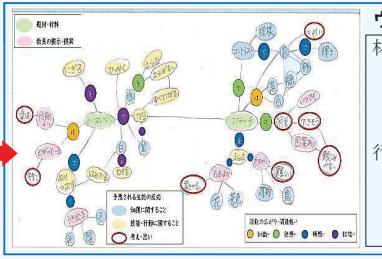
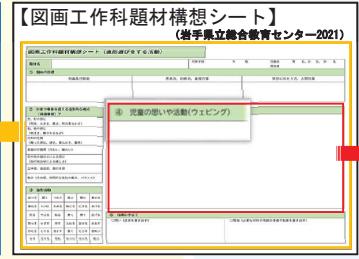
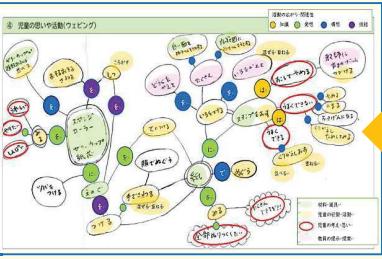
図画工作科題材構想シートの活用

教員の提示・提案

材料や用具についての種類、量、大きさなどの提示を工夫することで、児童の造形活動を引き出すことができるのではないか。

行動の発展

見る活動が、「やりたい」という意欲や「全部ぬりつくしたい」という造形的な活動に発展する可能性があるのではないか。



ウェビング部分の活用

材料・用具

生徒は、既習学習を通して、線をなぞったり、削ったりする活動に、「できそう」という思いをもつていいのではないか。

行動の発展

生徒は、削ることで浮かび上がる線や形、色つながりなどから、模様や色、明度の違いなどに気付くことができるのではないか。

評価の観点を踏まえた実態調査から、担当する教員が一人の児童においても観点ごとに段階が異なることや、ほぼ全ての児童に対して、個別対応を含む全ての支援が必要であると感じていることが分かりました。

児童の知識及び技能の実態に個人差が見られることを踏まえ、本単元においては「思考力、判断力、表現力等」を目標設定の中心に考えました。思考・判断・表現（1段階）知識（2段階）、技能（1段階）、主体的に学習に取り組む態度（1段階）を目標設定の目標としました。

また、一人一人の児童の前題材における興味や関心、特徴及び困難さ等を加味して、個別の目標の段階を調整しました。

<例>

児童Cは、好きな材料や色、用具を選び工夫しながら自分でつくり進めることができるので、「形で表したものに意味付けをして表す」技能2段階の目標を設定した。

【評価の観点を踏まえた実態調査】

観点	質問	回答	評価		実態内容
			基準	実態	
知識	1 自分が感じたことや行ったことを通じて、形や色などについて気付いています。	1 はい	○	△	○
知識	2 自分が感じたことや行ったことを通じて、形や色などの違いについて気付いています。	2 どちら	○	△	○
知識	3 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じについて気付いています。	3 どちら	○	△	○
知識	4 形や色や、材料や光などの特徴について知っています。	1 はい	○	△	○
知識	5 形や色や、材料や光などの特徴について理解している。	2 どちら	○	△	○
知識	6 形や色や、材料や光などの特徴を理解している。	3 どちら	○	△	○
技能	身の回りの自然物などに繋がるかからく、切る、める、ねるなどをしている。	1 はい	○	△	○
技能	身近な材料や用具を使い、せいたり、形をつくりたりしている。	2 どちら	○	△	○
技能	身近な材料や用具を使い、せいたり、形をつくりたりしている。	3 どちら	○	△	○
技術	9 色んな材料や用具を使い、工夫して動きをいかない作をつくったりしている。	1 はい	○	△	○
技術	10 材料や用具の使いに親しみ、表したいことに合わせて、表し方を工夫し、材料や用具の特性をいかないでいる。	2 どちら	○	△	○
技術	11 材料や用具の使い方に親しみ、表したいことに合わせて、材料や用具の特性をいかないでいる。	3 どちら	○	△	○
技術	12 材料や用具の特性のなかしながら身につけ、楽に身につけて、表したいことに合わせて、材料や用具の特性をいかないでいる。	1 はい	○	△	○
技術	13 材料や用具の特性のなかしながら身につけ、楽に身につけて、表したいことに合わせて、材料や用具の特性をいかないでいる。	2 どちら	○	△	○

補助資料2 pp. 4-5 参照

P D C A シートの活用

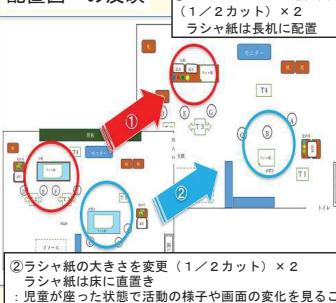
<一部抜粋>

内容：材料や用具の配置

評価：児童によっては、しゃがむ動作に時間がかかり活動の流れが途切れる。用具を選ぶ・形を写す動作がスムーズに行えるよう動線を整えたほうがよい。

改善：児童の集中力の持続性に応じ、小グループ毎にラシャ紙の大きさを調整する。また、姿勢の保持や運動・動作に関わる困難さに配慮し、作業台（長机）を用いて用具を操作しやすいように高さを調整することで、造形活動を思いきり楽しむことができるようとする。

配置図への反映



【P D C A シート】(岩手県立総合教育センター2020)

課題	児童がしゃがむ動作で、机の上に配置された用具を操作するときに足を踏み外すことがある。
原因	児童がしゃがむ動作で、机の上に配置された用具を操作するときに足を踏み外すことがある。
対策	机の高さを下げる。
効果	児童がしゃがむ動作で、机の上に配置された用具を操作するときに足を踏み外すことがある。

展開案への反映

課題	児童がしゃがむ動作で、机の上に配置された用具を操作するときに足を踏み外すことがある。
原因	児童がしゃがむ動作で、机の上に配置された用具を操作するときに足を踏み外すことがある。
対策	机の高さを下げる。
効果	児童がしゃがむ動作で、机の上に配置された用具を操作するときに足を踏み外すことがある。

P D C A シートの活用

<一部抜粋>

内容：作品鑑賞

評価：発言の場が設定されておらず、生徒の作品に対する思いを聞き出せていない。生徒の発言を引き出すには、イメージを言語化する準備が不足している。

改善：教員が、制作時に各制作会場を巡回し、生徒から作品に対する思いを聞き出しておく。講評の時間を設け、作品ごとに主題や工夫について紹介する。お互いの見方や考え方などを共有することで、新しい見方へに気付いたり、価値を生み出したりすることができるよう配慮する。

題材選択

教員間での共通認識

実態把握・目標設定

評価・改善